

1月

3西病棟



「その人を尊重し、同じ人として関わりたい。」

回復期リハビリ病棟 3年目

大和田 洋彰

回復期リハビリ病棟に勤務して3年目になります。入院されていた患者様で、とても印象に残っている方がいらっしゃいます。経口摂取ができず、経管栄養をされていました。経管栄養を開始するとすぐに下痢になっていました。経管栄養の内容や・薬・注入時間など色々と工夫していきました。しばらくし、下痢などが落ち着くと、驚くほどの回復をみせ、患者様自身で食事ができるようになり、経管栄養も中止となりました。その後のリハビリも順調に進み退院となりました。

数カ月後、外来待合にいと、その患者様が携帯酸素をしながら家族の方と歩いて来ました。声をかけると、気づかれて少しだけ挨拶をしました。入院中、辛い思いをさせているのではないかと葛藤を感じていました。しかし、スーツを着て自分で歩かれている姿をみて、入院中は辛かったけど、頑張るために関わられたことが、よかったと感じることができました。これからも、看護師として、慈しみとその人の目線に立って支援し、協力者でありたいと思います。そして、苦痛や不快感の緩和に努め、その人を尊重し、最大限に最善を尽くしていきたいと思います。

